

首都直下型地震が発生したら？ 群馬県支部の役割

日本赤十字社群馬県支部を含めた第2ブロック支部（関東・新潟・山梨）は、平成20年から、首都直下型地震に備えて広域支援体制を整備中です。東京都支部が救護本部機能を発揮できないと判断した場合、群馬県支部が救護本部を設置し、各県支部に救護班の派遣依頼などの指揮系統を担います。また、その他大規模災害が起きた時にすぐ駆けつけられるように、準備をしています。そのため平成24年度は、群馬県支部で主催する支部訓練をはじめ、県、市町村、消防本部、県外の主催する訓練などに積極的に参加し、年間を通して平均で月に3回程度、多い月には週に1回以上の参加となりました。



富岡市総合防災訓練 (H24.5.20)



群馬県総合防災訓練 (H24.9.8)



館林市総合防災訓練 (H24.9.30)



自衛隊渋川消防総合訓練 (H24.10.1)



第2ブロック支部災害救護訓練 (H24.10.11)



群馬県災害対策本部図上訓練 (H25.2.6)

第2ブロック支部初！ リフトテント到着

2月14日（木）、群馬県支部にリフトテントが届き、さっそく組立を行いました。災害時、被災地にて医療救護を行うために救護所を設けますが、既存の建物が利用できない場合、テントを設営して活動拠点とします。東日本大震災の際にも、空気を送り込み自立するエアテントを設営して医療救護活動を行いましたが、被災地では4月に入っても雪が降り寒さが続き、突風によりテントが破損してしまうなどの状況下で、活動は続けられました。その経験を踏まえて、風、雨、雪に強く、迅速に設営と撤収ができる大型テントを第2ブロック支部内に整備することとなりました。テント幕の重さは約140kg、横幅は6mとなり、骨組みに紐をかけて引っ張り、大人4～6人で設営することができます。首都直下型地震などの大規模災害に備えて、群馬県支部は活動していきます。



上からの様子



設営時の様子



内部の様子

活動資金にご協力ください。

Our world. Your move.
赤十字150年

ぐんまの赤十字

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。 Our world. Your move.

発行：日本赤十字社群馬県支部 〒371-0833 前橋市光が丘町32-10 電話 027-254-3636
URL <http://gunma.jrc.or.jp/>

第13号

平成25年4月1日



— 関越バス事故の教訓を生かして!! 災害救護訓練を開催 —

平成24年4月29日（日）の未明に発生した、群馬県藤岡市関越自動車道の高速バス事故の教訓から、同年10月28日（日）に日本赤十字社群馬県支部と群馬県の合同で、群馬県消防学校にて災害救護訓練を開催しました。

このバス事故で、DMAT（災害派遣医療チーム）の出動要請が遅れたことを重んじ、災害現場に出動した消防や警察から直接DMATに派遣要請ができるよう7月に運用を改め、今回はその実証訓練を兼ねて行いました。

大型バス2台と一般車両の多重事故で多くの負傷者が出たとの想定で、事故発生後直ちに要請を受け派遣された群馬県支部救護班は、消防や県内災害拠点病院DMAT、応援に駆けつけた茨城・埼玉県支部救護班と連携して医療救護活動を展開しました。

訓練には多くのボランティアも参加。アマチュア無線奉仕団は赤十字飛行隊の協力により現場の情報収集にあたり、接骨師奉仕団は救護活動の支援を行いました。地域奉仕団による炊出しも行われ、カレーライスが参加者の昼食として振る舞われました。

また、訓練には赤十字の活動を支える前橋市の自治会の方々をお招きし、視察をしていただきました。参加者からは「日頃の訓練の実施などでいのちと健康を守るという大きな使命を果たしていると感じた。」「自主防災会の訓練に取り入れたい。」といった意見が寄せられました。

訓練後の反省会では、医療機関と消防が連携して救護訓練を実施し、新しいシステムが実際に機能することが確認できた有意義な訓練だとして締めくくられました。

防災ボランティア養成研修会



ロープワークの様子

6月16日(土)、17日(日)の2日間、大規模災害などで被災地を支援する防災ボランティアの養成研修会が開催されました。救急員認定証を所持する19名の参加者は、テントを張る際のロープの結び方や、トランシーバーでの情報伝達、応急手当、炊出し訓練など、被災地で活動するために必要な知識や技術を学びました。参加者からは、「災害時には家族や地域のためにボランティア活動を行いたい。」との声が多く聞かれました。現在登録しているボランティアは約90人です。首都直下型地震に備えて、今後も養成研修会を開催していく予定です。

青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター



中学トレセンの様子(野外活動)

夏休みの期間を利用して、赤城山にて青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターを開催し、群馬県内の小学生、中学生、高校生を対象に、合計152名の児童・生徒が参加しました。参加者は3日間(高校生は4日間)の集団生活を送り、グループワーク、野外活動、救急法などを通して、態度目標である「気づき・考え・実行する」を実践します。誰からの指示を待つのではなく、周囲を見て、自分で判断して行動できるように、学校の先生方にご協力を頂き、プログラムを作成しています。参加した生徒の感想では、「自分の行動に余裕を持ち、周りを助けることを忘れずに行動していきたい。」とありました。今後とも未来を担うリーダーの育成を目指し、取り組んでいきたいと思ひます。

赤十字親子ミーティング



親子で炊出し体験

10月13日(土)、駒形小学校に通う児童とその保護者らが約30人集まり、炊出し体験を行いました。この取り組みは前橋市赤十字奉仕団が主催し、災害時の備えを学ぶとともに、親子の絆、地域のつながりを深めることを目的とし、今年で2回目となります。ハイゼックス袋(お米と水を入れてお湯で煮るだけでお米が炊ける袋)と災害時用の釜を使ってお米を炊き、子どもたちは本当に炊けたと喜んだり、驚いたり。赤十字奉仕団の松本雅子委員長は「災害時に地域内で協力しあえる関係を作りたい。」と述べました。災害時における地域の取り組みに対し、群馬県支部は継続的に支援を行っていきたく考えています。

赤十字ボランティア研修会



ほっとケア講習(富岡会場)

2月、県内4会場にて赤十字ボランティア研修を開催しました。各地域奉仕団の約40名がボランティアの基礎を学び、今後の取り組みについて考え、グループワークにて年間活動計画を立てました。また、災害時等に緊張感で強張った人の気持ちをほぐす「ほっとケア」の講習を行い、会場内は和やかな空気に包まれました。参加者からは「各地域の取り組みについて聞くことができてよかった。」「今回学んだことを地域に持ち帰りたい。」などのご意見が寄せられ、担当者からは「共通認識を持ちながら進められ、一貫性のある研修となった。今後の活動がより活発になるよう努めたい。」と研修を振り返りました。

4

5

6

7

8

9

10

11

12

1

2

3

赤十字飛行隊群馬支隊連携訓練



赤十字飛行隊による救援物資の搬送

6月21日(木)、赤十字飛行隊群馬支隊は災害時に備えて、日赤群馬県支部、行政、地域住民、地元企業などの連携を検証する訓練を行いました。現場は、国道18号が災害により寸断され、安中市の一部が孤立したことを想定しました。同市からの要請で飛行隊の3機のヘリコプターは、協定を結んでいるNEXUS(株)本社がある高崎市島野町の駐車場にて、日赤群馬県支部などからの救援物資を積み込み離陸。同社安中店駐車場へ飛び、着陸後に積み込んだ物資を、安中市職員や消防団員らに手渡しました。飛行隊の塙支隊長は「着陸する際に、駐車場に車が残り着陸できない可能性があるため、今後の対応を考えていきたい。」と次回に向けて反省点などを述べられました。

北関東三県支部青少年赤十字国際交流派遣 in ベトナム



ベトナム赤十字社にて

7月29日(日)から8日間、群馬、栃木、茨城県支部の3県合同でベトナム国際交流派遣事業が行われ、群馬県支部からは4名のメンバーが参加しました。同国赤十字社での災害対策事業としたマングローブの植林、保健衛生事業や青少年赤十字メンバーの育成などについて説明を受け、翌日からはそれらの見学や体験、交流などを行いました。参加したメンバーのレポートからは、ベトナムでの様々な体験や知り得た知識から、今後の自分たちの活動と真摯に向き合う姿勢を伺うことができました。今後の活動の糧として、これからもがんばってまいります。

シンガポールと群馬県の青少年赤十字メンバーら交流



青少年赤十字高校生メンバーの交流会

11月15日(木)から9日間、青少年赤十字メンバーの国際理解・親善を図るため、シンガポールから2名の女子高生が本県を訪問しました。17日に用意した高校生との交流会では、お互いの取り組みを紹介し合い、親睦を深めました。シンガポールでは群馬県と同様に地域福祉と連携した取り組みが中心です。彼女たちはホームステイや学校訪問を行い、茶道、華道、書道など日本の文化に触れ、日本食も美味しく食べられたとのこと。英会話によるコミュニケーションや、シンガポールの文化や取り組みなどを学ぶことができ、群馬県の高中生メンバーにとっても良い経験となりました。

雪上安全法救助員養成講習



雪上での運搬練習の様子

2月14日(木)から4日間、雪上での応急処置や運搬、パトロールなどを学ぶ講習が群馬県、千葉県、神奈川県支部の3県合同で開催されました。スキー場での監視に携わる方をはじめ、「いざという時のために」、「ボランティア活動のために」という意識をもたれた一般の方が群馬県から3名、全体で29名の方が参加されました。講習とはいえ、自身の安全を確保しながら行う必要があるため、高度なスキー技術が要求され真剣です。講習後のアンケートでは「難しかった」という方が過半数でしたが、同時に「勉強になった」「また受講したい」との意見が寄せられています。雪上での事故やけがの軽減を目指し、今後も雪上安全法の講習を開催していく予定です。